

# 桑名文化協

平成30年3月15日

第 43 号

桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
<http://bunkyo-kuwana.jp>

## 桑名マンドリン倶楽部と 六華苑

音楽部門 稲垣 洋子  
(桑名マンドリン倶楽部)

新春六華苑祭が行われるようになって以来、毎回参加させていただいております。今年はいつとも一番に悩まされている大雪も無く、寒い中多くの方々に来ていただいて、張りきって演奏させていただきました。

参加するにあたりまず考えるのが選曲です。私自身が、マンドリンを続けようと思つたのは、懐かしい唱歌をマンドリンの音色に乗せて聞いたときでしたが、皆さんそれぞれに心の琴線にふれるメロディーがきつとあると思うからです。

今までには、童謡・唱歌・映画音楽・フォークソング・古賀メロデー等を演奏してきました。今回は、冬景色、冬の夜、冬の星座、アニーローリー・エーデルワイスと風景が浮かんでくるような曲、



チキチキバンバン・ケセラセラは軽快な気分になる曲、学生王子のセレナーデ・テネシーワルツ・コーヒールンバのようにジャンルが異なつた曲を選んでみました。私の故郷にはそこに住んだ人なら誰でも知っている「音頭」があります。三重県に来て初めて聞いた「尾鷲節」も深く心に残っていますが、桑名にはまだ特有の音楽が無くて残念に思っています。

## 新春六華苑祭に 寄せて

美術部門 藤井 恭子  
(彫創会)

昨年とはうってかわり、風に冷たさはあるものの、冬の穏やかな日差しに恵まれた二日間でした。

芝生広場でのダンス、離れ屋での茶会、和館一の間から聞こえる琴、尺八、オカリナ等の演奏、番蔵棟では美術展というように「新春を寿ぐ華やかな会」として訪れただけだった皆様には十分楽しんでもいただけたのではないのでしょうか。

美術部門の彫創会では、今年の干支である戌を「戌・犬・イヌ」と題して、八点展示させていただきました。可愛らしい小犬の表情を捉えたもの、猫っぽい犬、縁起物っぽい犬、飼っている犬：等、それぞれの持ち味を生かし、楽しんで作ったものばかりです。

陶芸・写真・絵画・工芸の各分野におきましても、先生方の作品と共に会員の方々の力作が並び、新春にふさわしい雰囲気になっていったと思います。

今後に向けて。できれば、秋の文化祭に参加していただいている華道・愛石等の作品もこの六華苑祭に展示していただけるように



願っております。各部門が場所を分けて数点ずつ展示する方法でもいいし、年によって展示部門を輪番にする方法もあると思います。番蔵棟での展示内容を入れ替えることだけでも、新春の六華苑に来て下さる人達も変わりますし、増えていく方向につながるように思います。

尚、彫創会は、大山田の桑名市コミュニティプラザで、吉村寿夫先生のもと、作品製作しております。とても気楽で親しみやすい雰囲気ですので、是非ご入会下さい。お待ちしております。

# 市民芸術文化祭を終えて

## 「初心者かるた大会」

趣味教養部門 加藤 誠

(桑名若菜会)

十月二十九日(日)、季節外れの台風が近づくなか、中央公民館日本間にて、第二十六回桑名市民芸術文化祭行事として初心者かるた大会を開催しました。

この大会は、私たち会員が日頃練習している「競技かるた」ではなく、百人一首かるたを誰でも気軽に取ってもらえるようにと私たちが考案した、二人一組でチームを組み札を取りあう形式のものです。

市民芸術文化祭での初心者かるた大会は七回目となりますが、おかげさまで本年も参加二十チーム四十人の参加者に加え保護者の方、スタッフで会場はあふれかえるほどの盛況でした。

本年の特徴としてはかなりの参加者が百人一首の歌をほとんど覚えており、上の句の最初の数字が読まれるだけで取り札を取りにくいという、私たちの競技かるたとどれほどの差もないレベルの高さを感じるものでした。

また市内だけでなく県外から四チームも参加いただき、かるた人



気の広がりを感じるものでした。

近年、コミック・映画等で百人一首競技かるたが多く取り上げられることになったことの効果がこのようなところにも表れているのかなとうれしく思いました。

さてこのようなか、大会では、一首読まれる度に歓声(悲鳴?)が会場内に響き渡り、和やかななかにも白熱したたたかいが繰り広げられました。応援している保護者の方々の肩や手にも思わず力が入っている様子がうかがえ会場全体が熱くなるのが感じられました。二試合の競技を経て優勝から順

に全チーム一人ずつ表彰状と記念品をお渡しし閉会となりました。参加者皆さんが笑顔でお帰りになった表情をみて、また来年もより多くの方に楽しんでもらえるよう、工夫を加え継続して開催していきたいと思いました。

最後に、本大会開催にご支援・ご協力をいただきました桑名市民文化協会および関係者の方々にこの場をお借りして厚くお礼申しあげます。

## 市民芸術文化祭に思う

芸能I部門 中村かおる

(生田流箏曲愛会)

去る十月二十八・九日と両日にわたって恒例の市民芸術文化祭がNTNシテイホールで開催されました。例年土曜日に参加させて戴いておりますが、今回はいつもよりお客様が幾分多かったですように思います。只、残念だったのは、最後の舞台時は、お客様は七名だけ。本当に淋しい限りでした。もっとお客様に来て戴いてこの市民芸術文化祭が盛り上がり上がってくれるといいのですが…。

さて、最近読んだ『世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか?』

(光文社)の著者山口周氏のエッセイの中で「今、世界的なグローバル企業がアートスクールに幹部候補を送り込み、ニューヨークやロンドンの知的エリートが熱心にアートを学んでいる。それは現在のように複雑で不安定な世界では、これまでの論理や分析理性だけでは舵取りができない。そして又、人としての根源的な問いが重要であり、このような問いに昔から向き合ってきたものこそ、芸術であり、哲学や文学である」と氏は言う。人工頭脳が人にとって代わりつつある現代にあつて、芸術に少なからずも関わる我々は感性や直感を磨き、人間力を高め合える人の輪を広げていきたいと思えます。



# 市民芸術文化祭を終えて

芸能II部門 朝熊 正芳  
(吟剣詩舞道連盟)

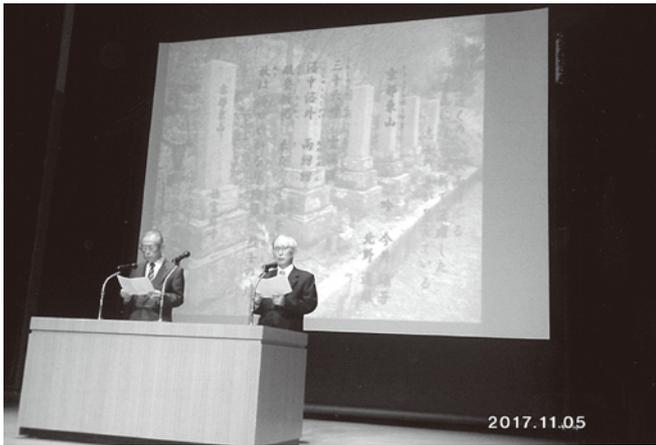
去る十一月五日NTNシティホール(桑名市民会館)小ホールに於て、吟剣詩舞道の祭典が開催されました。吟剣詩舞道連盟とは、関心流・岳風流・朧明流等が一堂に会して、毎年合同で桑名市芸術文化祭に参加し、会員各位の日頃の練習を遺憾なく発揮出来る場でもあります。毎年「市長・文化協会会長」各位のお祝の言葉を受けて発表会のスタートとします。

発表には二十一教室からなる会員数一七九名中一四一名の人が参加します。まず幼少年から始まり、プログラムに沿って独吟・連吟・詩舞・剣舞・和歌とあり、吟剣詩舞道の最も盛り上がる「構成吟」があり、岳風流一台、関心流は、今年各教室で、準備構成吟とし三台発表がありました。

構成吟は、監修、構成、ナレーター、映像とあり、特に映像は、プロジェクトとパソコンを使って映像の背景が、詩吟文字と作者の映像が映し出される為、観客の方も非常に内容を把握出来る特長があります。

今後は独吟・連吟・詩舞等も背景に「詩・映像」を取り入れて行くことも検討する必要があるのではないかと、又このところ新しい会員の入会が減少、又会員の高齢化も進み、新しい取組みで、若い人の入会を是非お願いしたい。

吟剣詩舞道は受け継がれる礼節の心と漢詩の勉強になり、腹式呼吸による発声の為、健康に力強く生きて行く為の活力でもあります。最後に各教室共三〜四回/月の練習を実施しています。是非一度見学に来て下さい。



## 桑名市文化協会 設立25周年記念事業

桑名市文化協会会長

荒木 敏文

桑名市文化協会は、平成5年6月に設立され、25周年を迎えました。私も設立当初から芸能部門に属し、長年、理事として参画させて頂きました。振り返りますと、大変早い流れを感じます。

皆様もご覧頂いたNHKの年末の紅白歌合戦の中で、安室奈美恵さんが歌手生活25周年を迎えたとの放映がありました。デビュー当時から現在を見ますと、時の流れを教えてもらった気がいたしました。

さて、文化協会は設立5年毎に記念事業を開催しております。シンポジウム・野外ステージでの舞台発表・講演会・他市との文化交流会を実施してまいりました。

今回は、正副会長会議・理事会において、会員一同が参加できる事業内容を開催すること検討を行い、映画会を上映することとなりました。

上映します「人生フルーツ」は、建築家の老夫婦の生活を追ったドキュメンタリーで、本当の豊かさ

や、幸せについて問いかける作品であります。

これからも、30年、35年と桑名市文化協会は、歴史と伝統文化に恵まれた桑名市の文化振興の要となる役割を果たしてまいります。

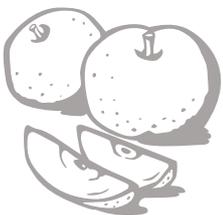
会員の皆様とともに、桑名の一層の発展を目指し頑張っていきたいと思っております。ご支援・ご協力をお願いいたします。



▲長年連れ添ったふたりの来し方と暮らし。こつこつ、ゆっくり。人生、フルーツ。

©東海テレビ放送

人生フルーツ



# 新春懇親会

文化協会副会長 丹羽 宗俊

「おめでとーございませう」「本年もよろしく」の挨拶がとび交い希望とよろこびがあふれるシテイホテルの懇親会場。一月十三日、好天に恵まれ、桑名市長はじめ北勢地区の文化団体、特別会員、各部門の会員のみなさん七十余名が集いました。

午後六時開会。初めに会長挨拶では「桑名市の財政は、相変わらずさびしいけれど、二十五年の歴史ある桑名市文化協会が、地域の文化の発信地となるよう努力したい。三月十日（土）の桑名市文化協会設立二十五周年記念事業の映



画会「人生フルーツ」の上映日には、多くの人に参加してほしい」との願いが述べられました。つづいて桑名市長伊藤徳宇様からお祝辞を賜り、ご来賓の方々が紹介されました。

次に、平成二十九年度の桑名市文化功労者表彰を受けられた美術部門の会員、浅井清貴さんから歓びのご挨拶があり、花束の贈呈もあって、いっそう歓びに華を添えました。

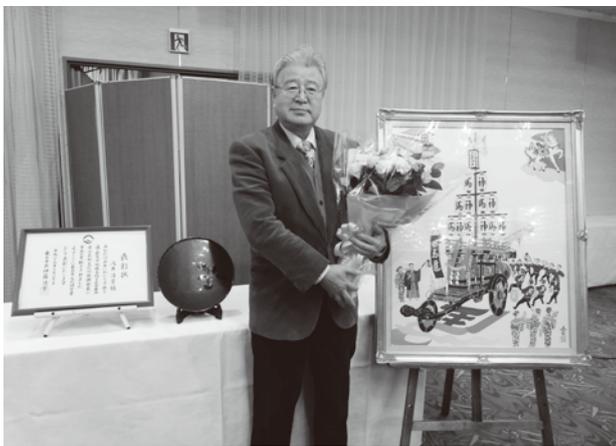
いよいよ、乾杯。懇親会に移り、歓談の中にご来賓の方々から、ご挨拶を賜りました。歓談のつづく中、大正琴愛琴会の演奏の美しい音色にうっとり。また、西川流舞踊紫会の舞姿の華やかさに時を忘れていた間に、閉会を迎えました。

来年も是非、各部門を越えて交流できるこの会に多数ご参加下さいますよう、お願いいたします。

## 桑名市文化功労者 表彰を受けて

美術部門 浅井 清貴  
(留美寝参寿久波奈)

この度平成二十九年度桑名市文化功労者表彰を戴き有難うございます。二十歳のとき独立展にデビュー以来、国内外で世界を目指して油彩タブローから造形オブジェ等多様多彩に制作・発表活動して来ました。現在ではアーティストが人を繋ぎ街をつくる」のコンセプトのもと、まちかど博物館や「文化と福祉のコラボ」芸術福祉



の取り組みも二十周年を迎えました。また九十年代に群馬のハラミュージアムアークでの「アートは楽しい」の企画で出会った三人で創立したボレアス展「現代美術の遊園地」の展覧会を毎年全国各地で開催。一昨年は二十五回記念展をバンクーバーで行い多くの日系人が住むカナダでも絶賛好評でした。

七年前文化協会の応援を戴いた「桑名伝統文化展 in カダケス」や翌年名古屋ノリタケの森での親子で大作コラボ展。等々、楽しい思い出でいっぱいです。しかしながら芸術の道ほど険しく果てしないものはありません。

この度の表彰を機に期待と責任の重みを痛感し、更なる精進と研鑽を重ねてまいりたいと思います。自身の制作の集大成と共に後進の為の取り組みや、活動支援もしなければなりません。そして桑名市をはじめ、日本の文化力を高める今一番やってみたいことは、過去に私が国内外五十四名の作家と共に招待された「ミュージアムシティー天神」の様なイベント、また昨年の「瀬戸マール」の様な世界規模のアートコンベンション等々の開催です。

三重県サミットに続き、アートの県や桑名の魅力を広げ元気にする試みです。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

# 平成三十年度 月釜・華道展日程表

開催時間：月釜 午前10時～午後3時30分  
 華道展 土曜日 午後1時～午後5時 日曜日 午前10時～午後4時  
 開催場所：六華苑 離れ屋（茶会） 番蔵棟（華道展）  
 呈茶券：前売券900円（六華苑入苑料込、茶道各流派師範宅・六華苑で販売）  
 当日券600円（六華苑入苑料460円別）

※4月14日（土）は「県民の日」を記念して六華苑の入苑は無料です。  
 呈茶券は、前売・当日共に600円。  
 ※お問合せ：桑名市文化協会事務局（桑名市商工観光文化課内）TEL0594-24-1361

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成30年4月14日（土）	裏千家	草月流
4月15日（日）	遠州流	草月流
5月19日（土）	遠州流	石田流
5月20日（日）	遠州流	石田流
6月16日（土）	表千家流	小原流
6月17日（日）	表千家流	小原流
9月15日（土）	遠州流	竹真流
9月16日（日）	遠州流	竹真流
10月21日（日）	裏千家	休会
平成31年1月20日（日）	煎茶松風流	休会
2月16日（土）	遠州流	華道家元池坊
2月17日（日）	遠州流	華道家元池坊
3月16日（土）	表千家流	MOA山月
3月17日（日）	表千家流	MOA山月

## 桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。つきましては平成30年度の育成補助金募集案内をいたします。

### ○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、平成30年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、平成28年・29年度に補助を受けていない会員。

### ○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

### ○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ申請する。

### ○応募受付期間

平成30年3月1日（木）～4月5日（木）  
 平成30年4月1日～平成31年3月31日までの実施事業に限る

### ○申請の制限

平成28年・29年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

## 第26回 総会のご案内

〈日時〉平成30年5月13日（日）  
 午前10時から  
 〈受付は午前9時30分から）  
 〈会場〉桑名市中央公民館 大研修室

\*各部門から代議員の選出をしていただきます。

## 平成29年度 新入会員の紹介

（3月1日現在までに入会の会員）  
 日本習字小山台支部  
 代表 林 花奈子（美術・書道）

### 新入会員を随時募集しています！

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか？

### ●お問い合わせ

桑名市文化協会事務局  
 （桑名市商工観光文化課内）  
 TEL0594-24-1361



# 文協文芸

詩

〈現代詩やまぶき〉

鈴虫 堀川孝子

鈴虫が鳴いている  
人はその音色を愛でるのに  
私には胸騒ぎがする  
羽をすり減らし働けばかりで  
短い生涯を終えた母

父が亡くなって一人  
天秤棒をしならせ下肥を運び出す  
肩に

青空ばかり見ている私が乗っていた

目的も決められないまま  
進学したいと打ち明けた夜  
顔をくもらせた母

二人の寝間に初鳴きの鈴虫の音が  
夜明けまで聞こえていた

勤め帰りに入院する母を見舞う

洞窟のような病室に響く  
イタイ！イタイ！母さんイタイ！  
はじめて聞く母の甘え

私のことばかり心配していた人が  
食べることを止め

何もかも投げ出して  
赤子に戻っていく

祖母は口元を引き締め  
瘦せた背中を抱いて  
とんとんとあやし続けた

祖母の右腕をもぎ  
私の左腕をもぎ  
破れた羽は千切れ落ち  
ぱったり止んだ鳴き声

今宵も 冷えていく草むらの中  
燃え尽きようとする無数の叫び  
歌うことのなかった母の歌声



洞窟のフラメンコ 安田治三

木箱に腰を掛けカホンを  
巧みに両手でたたき髭面の男

ここは地の底、地獄の坩堝  
リズムは女を躍らせる

女の動きは時々灯りを遮って  
妖艶な影を壁に揺らつかせ  
「洞窟の比喩」を思わせる

ギターの音色は時に雄々しく  
圧政に抗う市民の怒り嘆きを歌い

人々の叫びは獐猛で  
カスタンネットと手拍子は  
うねりとなって木霊する

激しく床を蹴る足音が  
地の底に響き刃のように  
五臓六腑に突き刺さってくる

女は獣の目つきで威嚇して  
厚化粧はいっそう男達を虜にする

ますます息遣いは荒々しく  
額や胸の幾筋もの汗は煙って  
虐げられた憤りを発奮する

長い喝采の後 外へ出た

果たして「イデアの知」を  
得たのだろうか

ギリシャは遠い彼方

解放された安堵と共に

真実世界の冷気が身にしみる

谷向いのグラナダの丘

アルハンブラ宮殿は

悠久の時間の中で眠っていた



ひとり旅 岡本妙子

いま ひとり旅の途中です  
バッグに身分証明書だけ入れて  
目的地は渡りきれそうもない  
川の向こう

ふるさとに引き寄せられ  
古寺の前に立つと

線香の匂いに満ちた  
墨絵のような過去がいぶかる

思い出の数

お数珠の玉をくるように  
指先で拭っては撫でている

曾祖母から祖母に

祖母から母に  
母からこの手に受け継いだ

百八つの珊瑚の数珠は

先祖からの血の流れのように  
寺を捨て家族から遠ざかった

懺悔の思いは

誰に謝ればよいのか

通り過ぎてしまった道草の数々と  
ごめんなさいの声は届ける人もい

ない

なつかしい道で

すれちがう人も少なくなった今  
バッグの中の身分証明書は

誰が見つけてくれるのだろう

## くわな川柳会

木原 広志

## 私とラジオ・テレビ

平成四年、CBCラジオ「荒せんラジオがいちばん」が終わる。縁あってこの番組の「川柳選評」を四年半担当した。ディレクターの注意に緊張したのもなつかしい。後半はアナウンサーの問いかけにも即座に応答できるようにもなった。

番組の中で企画された海外旅行にも二回参加、ニューヨークとパリでは川柳大会が行われ、CBCから賞品の協力もいただく。ラジオへ出ていた縁で、テレビのディレクターの方とも知り合い、先代の桂小文枝とも近江の水郷めぐり「あしたふた旅」へ出演。後年は、中京テレビへキャインのお二人と木曾三川公園の川柳大会へ。このラジオ・テレビ出演は私にとって何よりの経験になった。

川柳は同じ大衆詩でありながら俳句より一段低く見られてきたが、その川柳を番組へ取り上げていたことに関係者へ感謝したもの

である。ラジオの投句は県外の方からも沢山いただき番組を盛り上げていただき、いかに川柳が多くの人に愛されているかを知ることが出来た。

俳句は目で味わい、川柳は耳で味わうと言われ、川柳は一読明快平易な表現によって訴え、耳から入った時、品のいい笑いをくれる。これが川柳の極致と言われます。しかし、ややもするとこれらをはき違え、ダジャレ、クスグリのあれる句が、新聞や、雑誌などに見られることが私たち実作者には残念でなりません。

## 画賛について

名古屋の鶴舞中央図書館では会議室を無料で貸すと聞き、早速申し込み、川柳講座を呼びかけたところ三十名の申し込みがあり、二十名が定着した。「川柳は金を取って教えるものではない」との先輩の言に従い、受講はプリント代実費とした。やる以上特色のあるものにしたいたいと思い毛筆で句を書くことを提案した。小学校以来だと言口しながら大半の人が同意してくれた。

このごろ柳人も俳人も毛筆を握らなくなった。毛筆は日本の文化だと思ふ。東北に「日本詩歌文学館」があり、折に触れ全国から短冊や色紙が寄せられるが、昔ほど能筆の人は見られなくなったのは残念である。

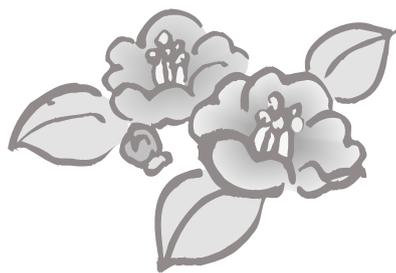
ところで講座では画賛を取り入れてみた。画賛とは、画のある短冊や色紙の余白へ一句添えるものであり、川柳では絵に対して「つかずはなれず」と教えられた。例えば椿の花の場合、椿とせず「花のいろ」とする。俳句に対して一線を引いたところ心にくい。

私ごとであるが四十歳ごろ将来を考え、書道を習うべきかを能筆の先輩へ相談したところ、「手おく

れであるから、昔の人のように自分の字を作りなさい」とのアドバイスをもらい断念し、日本画の師についた。今回の画賛についても、アドバイスは正解だったと思う。

画賛した色紙を乞われると差し上げることがある。一枚が、ホテルキャッスルの方の手へ渡り、館内へ掲げておいたところ、宿泊したフランス人が所望し持ち帰られたと聞く。

昨今、日本人でなく外国の人が日本の毛筆に興味をもつと聞く。昔の年寄りのように習っていないなくても毛筆もてる年寄りが増えてほしいと思う。名古屋の鶴舞公園は有名な桜の名所、公園事務所の許可を得て桜の枝へ短冊を下げることを計画している。希望者には差し上げる趣向だ。柳人以外の方が川柳へ興味を持ってもらうのが狙いである。



短歌

〈金雀枝短歌社〉

● 会員 近詠

つぼみの先ほんのり染めし菊あまた手折りて墓へ母の忌ちかし

赤堀眞美子

紅色の雲を背にする鈴鹿の嶺黒くどつしり我を迎える

池田三津子

十八号又も近づく台風に先の豪雨の被災地おもう

石川 房子

満開の桜花真白く広がりに垂れたる枝先丸くおもたげ

石川富士子

春の野の花の刺繍が仕上がりぬ隅に小さく名と年記す

一見 泰江

曾孫らは遺影の並ぶ部屋に座しお化け出ぬかと婆に問い来る

伊藤さくえ

汗の染む作業着につく種三つ間違いのなく秋は来ている

伊藤 紗代

弾むように歌えと講師の指導受く「赤いスイートピー」時空を超えて

伊藤美咲子

即詠のメモ帳バッグに仕舞ふときなほも詠へと風がうながす

岩花キミ代

不向きだと解っていたに吾がキラの箍のはずれて修復出来ず

上田 順子

名古屋ドームの柿落しに夫と行きしパバロツティー歌声今も残りぬ

海老原秀世

透明でまあるい心いつの間に何処へ行ったか穴に落とした

太平 千歳

ドライブに誘はれきたる美濃の里溪流のおところやかに鳴る

岡本 節子

一輛の電車にゆられ長良川溪流エメラルドグリーンの帯

加藤よしみ

商ひに縁なき吾らも参拝をかねての買物お千代保稲荷に

川村久美子

人ごとと思ひて過ぐす米寿なれ寝覚よろしく朝の味噌汁

黒田美代子

丹田へそつともろ手を重ねれば肺のりハビリ歌ごえ響く

後藤 明美

ひこばえの青々とした一劃に横たふごときサオリーナ建つ

近藤 光子

台風に阻まれたピーターラビット展、あいにきたよ、一家総出で

斎田 眞希

プレバトでいつも見ているその姿夏井いつき氏夫と現わる

佐竹貴代子

御開帳の堂宇の読経にまじり入る尼僧の経のひとすじ高し

四方千枝子

風を切りバイク走らす木屋のかすかな匂いが追いかけてくる

鈴木美恵子

秋の陽をもろに受けつつ鉦叩の名残りの音に合はせて歩む

三田香代子

旅先の写真に笑顔でピースする夫に声かけ朝のはじまる

高橋 典子

児の奨める『暗号クラブ』読みをればのさ言葉に遊べる頃と重なる

高橋フクミ

くちびるの上下をつかみ「わる口を言はないため」と孫の言ひたる

田中 流石

五日ほど来ぬ間に島のコスモスがうす紫の花盛りなり

立松 鈴子

おのづから気のあらたまる深大寺鳥の音を聴き参道すすむ

千種てい子

巨勢山のつらつら椿落ち椿鹿の足跡椿の御寺

辻本 昌子

秋田犬びたりと人に寄り添いて影絵のごとく小高き土手行く

中野 満代

隣家の金木屋と我が庭の銀木屋の香りつながる

中村 里子

十月と思えぬ暑さも時折に網戸を通りぬ極楽の風

南部 信子

若草色オリーブ色から深緑白馬めざして緑を走る

西塚 郁代

眼科医の「眼圧に」いつものことばまほうのことは気分は無重力

西野美津恵

町屋川の堰の水音とめどなく白鷺あまた秋陽に並ぶ

西羽加代子

石階を暗め覆いし大銀杏亡くて寂しむ鶴岡八幡宮

丹羽 孝之

降りしきる雨に煙れる石榴の木高きに残る紅き実一つ

水谷 郁子

いざよひの月まふたつに斬りながら機影ひとすじ雲ひきてゆく

水谷貴美子

山裾の北畠庭園は苔むして水と虫音聞こゆるばかり

三林 牧子

遠き秋駄菓子持ち寄り藁山を崩し温たき秘密基地とす

宮原 恒子



## 〈楓・山城顕彰短歌〉

### ●小・中学生作品

ニハオと書かれたTシャツ着てい  
るとあいさつできる魔法がかかる  
小六 森 愛由菜  
あざやかなピンクの花のさるすべ  
り心が晴れる多くの記念樹  
小六 小林 晴  
けんかしたその日の夜はその事が  
ただよつてるよなみだの海に  
小六 後藤 天音  
思春期でお父さんぎらいはじまっ  
たでも働く姿はカッコイイよね  
小六 寺岡 真矢  
おばあさんぺちやくちやくちやく  
ちやくるさいなそれでもぼくは聞  
いてやるよ  
小六 中島 陽太  
一球で試合に負けたそのしゅんか  
んぐつと涙がこみあげてきた  
小六 服部 竜也  
たった今スタートラインに立った  
気分ノートとぼくの真剣勝負  
小六 久光 利弥  
夏のおわり夕日でそまる雲を見た  
青色の空はそまらずにいた  
小六 佐藤 実月  
足のばし手はおくにつきおもいきり  
ちようばをとんであせがふきでた  
小六 谷 北斗

むせかえる道路の熱がかげろうに  
僕の頭もくらくらゆれる  
小六 八島 寛

夏休みのんびり過ごす祖母の父母  
の笑顔が子どもにかえる  
中二 鈴木瑛里花

「ワレワレハ」と声響かせる妹は  
扇風機の前宇宙人になる  
中二 清水 那祐

甲子園選手の背中押すように球場  
に響く私の音色  
中二 古市 涼乃

試合前「しゅるり」と結ぶくつひ  
もに気合い入れて歩き始める  
中二 伊藤 愛莉

傘開く見渡す限り花畑ゆらゆら揺  
れるみんなの個性  
中二 三永 葉

キラキラのフルートにぎる手ふるえ  
てるとてもまぶしいスポットライト  
中二 岡本 百華

不器用で声が小さい私にも話して  
くれるバスケットが好き  
中二 村田 優花

民民民ついに蟬達が騒ぎ出す日本  
の政治が夏になった  
中二 小林 良永

部活後に自転車こいで帰る道色ん  
な家から夕食のにおい  
中二 友田 江莉

「ただいま」と元気に言うがだれも  
居ず私は言うよ元気に「おかえり」  
中二 上野 凜

## 虫と樹と人間と

### 〈個人会員 松井久雄〉

#### 〈蝉しぐれ〉

★公園の樹の間を行けば蝉しぐれ  
励ましてくれる猛暑またよし  
★熊蝉を誇らしげに捕えしは少年  
の日のま夏の仕事

★波風のあらし日もある熊野灘熊  
野通いの船偲びおり

★機帆船徴用令で召されたり行き  
て帰らぬ父の名の船

★青空を気球らしきが飛びてゆく  
地上見おろす平和な日本

#### 〈ホタル〉

★宵闇にホタル飛び交うときを待  
つ人らの車ずんずん増えて

★ほんのりと明かり灯してわが前  
にホタル蛍の乱舞始まる

★カワニナの採取活動種の保存平  
和のあかしホタルの飛ぶは

★ま昼まは鉄柵ありて踏みこめぬ  
ホタルの里は平和の聖地

#### 〈わだつみのこえ〉

★ミャンマーのスーチャー女史の来  
日に改めて読む「ビルマの堅琴」  
★戦犯の「きけわだつみのこえ」  
しずか処刑前夜の二十八歳

#### 〈洪柿〉

★物干しの支柱にされし洪柿は  
黙っているが見ているだろう

★無料ですソウインコンポの肥料  
配布一人四袋妻と二人で

#### 〈人生百歳〉

★歌詠みに野菜つくりにお買い物  
自転車に乗って喜びのあり  
★買い物になじみの女性に今日も  
会う人生百歳夢とも言えぬ

★並びおりドラゴンフルーツベト  
ナムに育ちし物が今わが前に

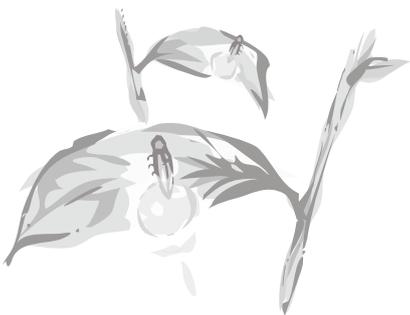
★塩焼きのまさばの産地ノルウェー  
と明記されおり二百円とは

★銀鮭の塩焼き一きれ買うとする  
はるかなる地のチリ産とはね

#### 〈戦艦大和〉

★いくたびも戦艦大和うつされる  
DVDの宣伝これは

★銃肩に出陣学徒壮行会学生帽の  
隊列はゆく



# 桑名地名あれこれ(18)

社会文化部門  
(個人会員)

大河内 浩

## 下野代の行宮遺跡

平成三十年は、慶応三年十二月九日(一八六八年一月三日)明治新政府の樹立宣言により近代日本文化の淵源となった明治維新から一五〇年節目の年です。古来神社は日本人の暮らしと密接に関わり、明治維新の精神的意義を闡明してきました。この地方にも太古の時代からの神社が幾つかありますが、多度町下野代の野志里神社もそのひとつです。延長五年(九二七)に編纂の延喜式神名帳に載っている桑名郡内13神社の中にもこの名がみられ、また古代桑名郡5郷のひとつ野代郷もこのあたりであったと考えられています。



「伊勢神宮御旧跡野代の宮」の標柱が立つ野志里神社



倭姫命御遷幸図(神宮文庫蔵)にも野代はあるが、このように野代宮=江場安永説を採る文献も多い

下野代は「下之田代」の転訛で下に対して上野代という名が存在しないように、野代はもともとの村名ではなく、下野代のもう少し東に位置した同音の古代郷名に発祥していると言われます。宝暦年間津藩主藤堂侯が編述の三國地誌図譜にも「下之代」とあります。伊勢神宮内宮の天照大神が現在の地に祀られるまでには数々の地をたどり、その16番目に野代宮があります。第11代垂仁天皇の皇女倭姫命が、その天照大神を永遠に祀るための地を求め旅をした中で4年間留まられた野代宮は、この野志里神社へ牽合されたと伝説され、境内に標柱が立っています。

ご賛助いただいております  
特別会員の皆様

3月1日現在  
(五十七名)

- 医療法人普照会 もりえい病院様
- 医療法人誠会 山崎病院様
- お菓 子 処「和」様
- カネソウ株式会社様
- 株式会社朝日鋳工所様
- 株式会社歌行燈様
- 株式会社グランビル様
- 株式会社 ケイディーエンジニア様
- 株式会社 山 水 園 様
- 株式会社 水谷精機工作所様
- 株式会社 レイ・ステージ桑名様
- 木 村 洋 子 様
- 桑名シティホテル様
- 桑 名 信 用 金 庫 様
- 在日本大韓国民団三重県桑名支部様
- 中央不動産株式会社様
- 辻内鋳物鉄工株式会社様
- 兎 月 堂 様
- 花 新 江 場 中 店 様
- 花 乃 乃 舍 様
- 光精工株式会社様
- ヒルカワ金属株式会社様
- 三重精機株式会社様
- 森田フードシステム株式会社様
- 有限会社 茶 茂 様

日頃の協力をありがとうございます。  
深くお礼申し上げます。

## 編集後記

春のおとずれを待つ様に福寿草が芽ぶいてまいりました。文協に初めて入れていただき、何もわからないまま、月釜、市民文化祭等々有り、又年を越し、寿ぐ茶会、六華苑祭等、皆様が色々な場でご活躍されている様子を見聞き、私も頑張らなくてはと思う今日この頃でございます。

設立二十五周年記念事業の映画「人生フルーツ」是非皆様に見ていただきたいと思っております。

私も皆様にご指導いただき頑張ってまいりたいと思っております。

茶華香道部門 水谷 信子

広報担当副会長	丹羽 宗俊
広報担当副会長	安田 治三
委員	上田 順子
文学部門	佐久間 悟
美術部門	藤井 弘
音楽部門	村瀬 昌子
芸能I部門	家田 厚岳
芸能II部門	伊藤 好子
芸能III部門	相原 千景
演劇部門	水谷 信子
茶華香道部門	大河内 浩
社会文化部門	加藤 誠
趣味教養部門	